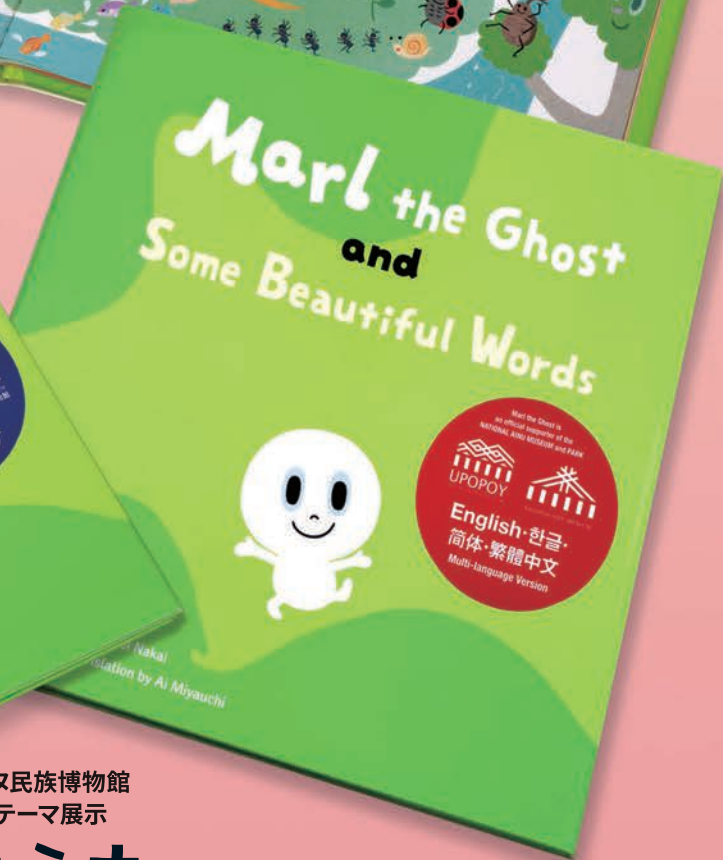


# ANUNU ANUNU



国立アイヌ民族博物館  
第6回テーマ展示

## ミナミナ

おぼけのマールとすてきなことば展

おぼけのマール © Rei Nakai / NAKANISHI PUBLISHING CO., LTD

※「ミナミナ」は、アイヌ語で「笑って 笑って」という意味です。

基本展示室のこの展示を見て! / 博物館 Pickup! / 見て見て! 園内サイン③ / 博物館の教育活動  
調査研究最前線⑧ / 国立アイヌ民族博物館からのお知らせ / ウポポってこんなとこ⑫





**作品介绍**

『おばけのマールとすてきなことば』

ウポポイ(民族共生象徴空間)を舞台とした絵本『おばけのマールとすてきなことば』(え・なかいれい、ぶん・けーたろう)は、「おばけのマール」シリーズ誕生15周年となる10作品目として、2020年4月24日に発売。絵本制作には当館職員も協力しています。英語・中国語・韓国語で読める多言語版があるのも特徴です。



左:日本語・アイヌ語表記版  
右:多言語版の『Marl the Ghost and Some Beautiful Words』

国立アイヌ民族博物館 第6回テーマ展示

# ミナミナ

## おばけのマールとすてきなことば展

※「ミナ ミナ」は、アイヌ語で「笑って 笑って」という意味です。

会期 **2024.3.16** ± ~ **5.12** 日

※休館日:月曜日(祝日または休日)の場合は翌日以降の平日)  
4/29(月・祝)~5/6(月・祝)の間中は毎日開館します。

会場 **国立アイヌ民族博物館 2階 特別展示室**

※博物館の入館料は、ウポポイ入場料に含まれます。

まいて、めくって、  
アイヌ語を学べる体験型展示



絵本に登場するアイヌ語やアイヌ文化について学べる体験型展示

みんなの「すてきなことば」で  
ウポポイの木を育てよう!

#すてきなことばの木  
#UPOPOYtree  
のハッシュタグをつけて  
SNSに投稿すると、  
木の成長記録になります!

# ピッカ!!

すてきなことばで、  
ウポポイの木を育てよう



すてきなことばの木

体験型デジタルアートで絵本の世界へ



クリエイティブカンパニー NAKED, INC.(ネイキッド)が  
手がける体験型デジタルアート  
©naked inc.



おばけのマール  
キャラクターデザイン案  
(個人蔵)



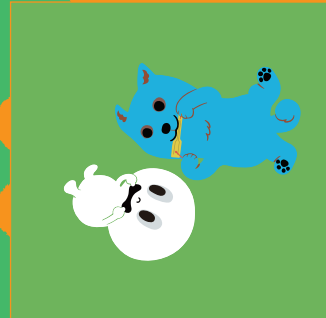
けーたろうの万年筆(個人蔵)

札幌の絵本である  
「おばけのマール」全シリーズを、  
絵本原画と共に紹介。  
絵本制作の資料も  
展示しています。



絵本「おばけのマールと  
おかしなとけいだい」  
(2012年)原画

# レッテ



絵本『おばけのマールとすてきなことば』  
(2020年)原画

『おばけのマールと  
すてきなことば』を中心に、  
「おばけのマール」シリーズ絵本の  
原画を、絵本と関りの深い  
資料とともに展示。



ムックリ(当館蔵)

# ミウミウ

マールと一緒に  
アイヌ語で遊ぼう!

### Event 関連イベント

●なぞとき  
ゲームブックを手に、マールと  
一緒に展示室にかくされた  
謎をときあかそう!  
ぜひやってみてね!

●すてきなことばアルバム  
お気に入りのアイヌ語を探して、  
すてきなことばアルバムをつくってみよう。  
【開催日時】3月16日(土)、3月23日(土) 13:30~14:30  
【会場】国立アイヌ民族博物館1階 交流室/2階 特別展示室

●ウポポイでマールがであったおともだち  
『おばけのマールとすてきなことば』に登場する動物たち  
について、アイヌ文化との関わりなどをご紹介します。  
【開催日時】4月27日(土) 13:30~14:30  
【会場】国立アイヌ民族博物館1階 交流室

●なかいれいさんとおえかき  
『おばけのマール』シリーズのえを担当する  
なかいれいさんと一緒に、おえかきをしよう  
【開催日時】5月4日(土)、5月5日(日・祝) 13:30~14:30  
【会場】国立アイヌ民族博物館1階 交流室

その他、絵本  
『おばけのマールと  
すてきなことば』  
読み聞かせも開催  
予定です。

※詳しくは当館  
ウェブサイトをご確認ください。



【主催】国立アイヌ民族博物館  
【特別協力】中西出版株式会社  
【後援】公益社団法人北海道アイヌ協会  
【協力】一宮市三岸節子記念美術館、一般財団法人札幌市  
交通事業振興公社、株式会社エイチ・アイ・エス、公益財団  
法人札幌交響楽団、札幌芸術の森美術館、札幌市青少年  
科学館、札幌市時計台、札幌市円山動物園、北海道立三岸  
好太郎美術館、NAKED, INC.(五十音順)



# 基本展示室のこの展示を見て!

当館の基本展示室では、過去から現在までのアイヌ民族の歴史や文化に関連する展示品を幅広く紹介しています。基本展示室は6つのテーマ展示+探究展示で構成され、関心があるテーマやモノを自由に見ることができます。今回は、基本展示室の見どころを「クマ」にまつわる資料を中心にをご紹介します!

## 1 アイヌ文化のなかで、クマはどんな存在?

クマは、人間に毛皮・肉・熊の胆など生活の糧を授けてくれる重要なカムイです。日常的にクマを狩ったり村で仔グマを飼育したりして、霊送り儀礼を行っていました。キムンカムイ(山にいるカムイ)と呼ばれ、アイヌ語でクマを指す言葉は80以上もあります。カムイの中でも特に威信のある存在であるとともに、生活に身近な存在であったことがうかがえます。



樽太のイヨマンテ

## 2 どんな資料があるの?

**ともに暮らす**

山で日常的にクマを狩っていたほか、春先のクマ猟で仔グマを捕らえると、村に連れ帰り1~2年育てました。初めは家の中で人間の幼児と同じように世話をし、大きくなると村にへべレセツ(クマの檻)を建て、へべレニマ(クマの給餌器)で食べ物を与えます。その後、育てた仔グマのイヨマンテ(霊送り儀礼)を盛大に執り行いました。

へべレセツ/エベレセツ  
へべレニマ/エベレニマ

イノカ(クマの木彫)

**狩猟と交易**

クマ猟は毒矢や仕掛弓を使って行いました。近代に入ってから、猟銃も使うようになりました。毛皮は交易品に、肉は食料になり、熊の胆は胃腸薬として珍重されました。

アマツボ/クアレ  
熊の胆

猟師の装い

**儀礼と装い**

男性が儀礼の際に身に着けるサパンベ(儀礼用冠)や、儀式に用いるイクパスイ(酒を捧げる祭具)にも、クマがかたどられているものが多くあります。また、イヨマンテ(クマの霊送り儀礼)には華やかな装飾が施されたへべレアイ(花矢)が使われます。

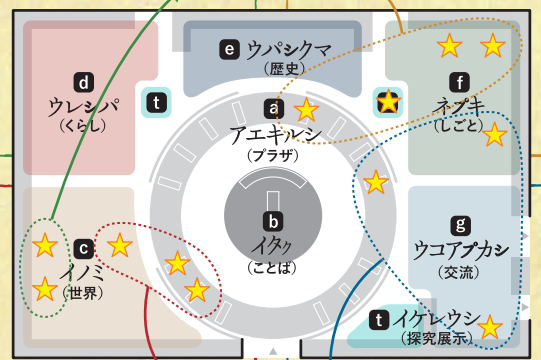
サパンベ/パウンベ/イナウル  
イクパスイ/イクニシ

へべレアイ/エベレアイ

**工芸と観光**

北海道の有名な土産品、クマの木彫りの制作・販売にたくさんの職人が腕をふるっています。道内各地の職人たちの活躍は、今日までのさまざまなアイヌ工芸家の輩出につながっています。

クマの木彫り ケントチアイヌ(銘)  
「熊面」藤戸竹喜作



みなさんもぜひ、基本展示室で関心のあるテーマやモノを探してみましょう! (アソシエイトフェロー 田村実咲)

# 博物館Pickup!

国立アイヌ民族博物館の収蔵、展示資料をピックアップして紹介します。

# 錠 (銅製)

私たちの歴史「ウバシクマ」に展示されている錠(銅製)は、今から30年前に北海道平取町カンカン2遺跡で発掘された10~11世紀頃の資料です。10~11世紀頃と言えば、石の道具から鉄の道具へと置き換わっていく時代です。また、器は縄文時代以降、素焼きの土器が使用されていますが、一部には本州の窯で焼成された須恵器が北海道内に移入されている時代です。

私たちの歴史「ウバシクマ」に展示されている錠(銅製)は、今から30年前に北海道平取町カンカン2遺跡で発掘された10~11世紀頃の資料です。10~11世紀頃と言えば、石の道具から鉄の道具へと置き換わっていく時代です。また、器は縄文時代以降、素焼きの土器が使用されていますが、一部には本州の窯で焼成された須恵器が北海道内に移入されている時代です。

前後で底面に向かって次第に薄くなっています。

展示品2は推定口径17.0cm、現存高5.1cm、重量130.4gで、底部付近を欠失しています。一見、口縁部と見られる部分は、金鉢状のもので水平に切断された痕跡が見られます。切断部の厚さは1.13mmで、やはり底部に向かって薄くなっています。成分はDタイプ。

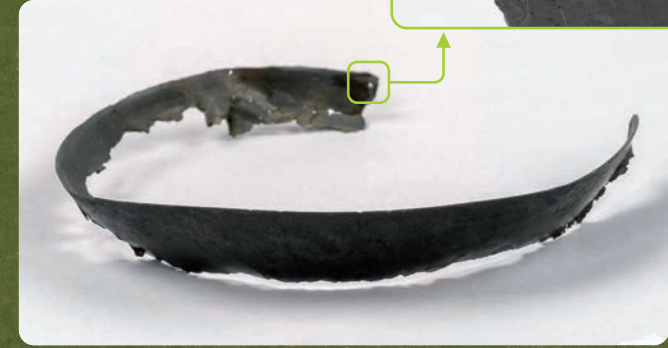
これらの錠はいずれも当時にあつては貴重な合金の錠ですが、あえて切断するなど手が加えられていることから、平取町の遺跡に持ち込まれたころには別用途として利用されたことがうかがわれます。

(教育普及室長 森岡健治)

そのような時代に、朝鮮半島から日本本土にもたらされたもののひとつに佐波理錠があります。佐波理とは銅を主体として錫・鉛の合金で作られた金属で、鍛造によって製作された錠は磨くと黄金色に発色します。しかし、当時の日本国内での合金技術は未熟なもので、佐波理錠の移入とともに工人の技術も発達していったもの

とされます。そうした合金、鍛造によって製作された錠が、カンカン2遺跡から4個体分も出土しました。4個体の合金の成分には偏りがあり、Aタイプは銅・錫系の朝鮮半島で製作された典型的な佐波理錠(正倉院のものと同技法、成分等が同一系統)と断定されました。Bタイプは、成分の多い順に銅・錫・鉛・ヒ素系のもの。Cタイプは、銅・ヒ素・錫・鉛系のもの。Dタイプは、銅・鉛・ヒ素系のものでした。

展示品1は推定口径20.0cm、現存高3.3cm、重量80.7gで、下半部を欠失した錠です。成分はCタイプ。口縁部には細い舞錐状のもので穿孔した痕跡が1か所認められます。口唇部の平均的な厚さは1.5mm



展示品1



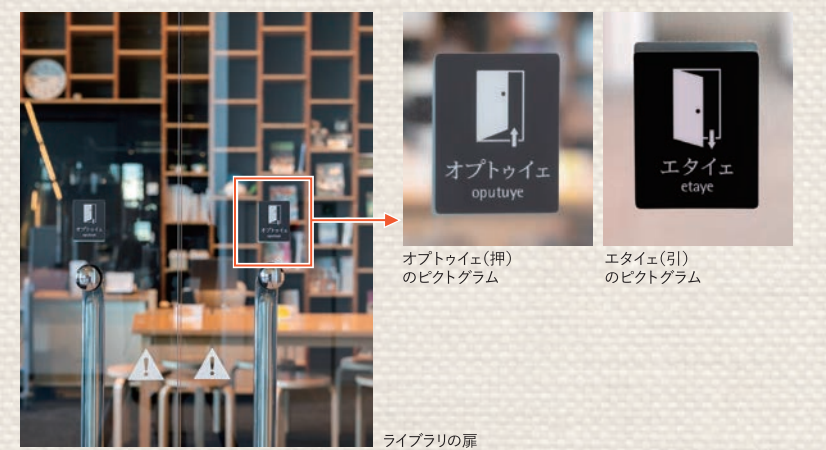
展示品2

沙流川歴史館 蔵

## ウボボイの園内サインをご紹介します、皆さまにより広くアイヌ語を知っていただくコーナーです!

### 見て見て! 園内サイン ③ オプトウイェ/エタイェ ~を押す/~を引く

園内サインのうち、第一言語のアイヌ語のみで表示している箇所があります。扉につく押引の表示です。構想段階では、アイヌ語、日本語、英語の3言語で示すつもりでした。しかし、文字だけの表示では機能的にもデザイン的にも損なわれるものが多いと考え、アイヌ語のカナ表記とローマ字表記にピクトグラムをつけて表示することにしました。扉が開く方向は矢印で示し、アイヌ語も命令形を意図してシンプルにしたのが特徴です。アイヌ語の動詞には、単数形と複数形を区別するものがあります。ひとつの扉を押引するのでオプトウイェとエタイェは単数形ですが、複数の扉の押引を指示する場合はオプトウイパやエタイパと言います。



ライブラリの扉

(研究員 深澤美香)



国立アイヌ民族博物館で行われている教育普及プログラムや、教育普及のツール、教育展示「探究展示 テンパテンパ」などについての話題を取り上げます。  
今号は、「探究展示 テンパテンパ」をより深く楽しむ方法を紹介し、また、秋の特別展示の関連イベントの様子も紹介します。

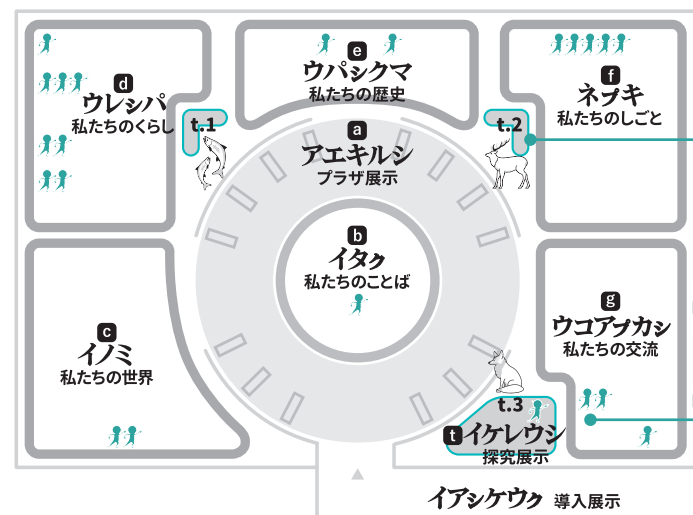


# 探究展示でたのしもう!

いってみよう! 基本展示と探究展示のつながり

アヌアヌvol.3からvol.11まで、基本展示室内にある「イケレウシ テンパテンパ 探究展示 テンパテンパ」について紹介してきました。vol.3でも簡単にふれていますが、このコーナーはここだけで展示体験が完結するわけではなく、基本展示室内の6つのテーマ展示と関連しています。

ユニットの右側には、そのユニットの楽しみ方や解説が記載されています。ここをよく読んでユニットを楽しんでもらいたいのですが、ページの下部には「いってみよう!」のアイコンが…。よく見ると、このユニットとかかわりのあるテーマ展示の場所が示されています。では、その場所に行ってみましょう!



印が探究展示とかかわりのあるテーマ展示の場所です

すると、そこには探究展示のピクトグラムが掲示されています。この展示を見れば、ユニットで体験したことをさらに深めることができるのです。

このように「探究展示からテーマ展示へ」というパターンもあれば、この逆も考えられます。テーマ展示を見ていくなかでピクトグラムを見つけたら、その探究展示のユニットを体験してみると、もっとテーマの理解が深まるでしょう。

探究展示とテーマ展示を行き来することで、博物館をより楽しんでくれたらうれしいです。(研究主査 奥山英登)



探究展示t.2にある「15 タマサイ」ユニット。解説には、「いってみよう!」のアイコンが。「g.1 交流」に行ってみましょう。



「g.1 交流」に探究展示のピクトグラムが。ここで「タマサイ」ユニットでの体験を深めましょう。

2023年10月7日に、第7回特別展示「考古学と歴史学からみるアイヌ史展 -19世紀までの軌跡-」(会期:9月16日~11月19日)のトークイベント「アイヌ史にみる動物の話」を開催しました。「動物をデザインした考古遺物」と「絵図に描かれるオットセイ」をテーマに、鈴木研究主査と藪中研究学芸部長が考古学と歴史学のそれぞれの視点からみるアイヌ民族と動物とのかかわりを話しました。動物のぬいぐるみに囲まれた会場で幅広い年齢層の方が参加され、「考古と歴史のアプローチのちがいとつきあわせのおもしろさを実感できました」「お二人の講師のお話が、普段図書館などで読む本ではなかなか読めず、ちょっとマニアックで楽しかったです」といった感想をいただきました。

## 教育普及活動報告

このほかにも関連イベントとして、開会記念講演会と展示担当者によるギャラリートーク(全6回)を開催しました。(アソシエイトフェロー シンウオンジ)



「動物をデザインした考古遺物」の様子



「絵図に描かれるオットセイ」の様子

## Report 1

### アイヌ語資料等のアーカイブ化とその活用に関する基礎研究

ウポポイや国立アイヌ民族博物館はアイヌ語を第1言語とし、案内表示や主要な解説文など多言語化している箇所ではアイヌ語を先頭に表示しています。しかし、それはまだ一部というのが現状です。アイヌ語業務の担当者としては、さらにアイヌ語を使っていきたいという気持ちがありますが、実際にアイヌ語を使うとした際に、既存のアイヌ語にはない語や表現が必要となることがあります。

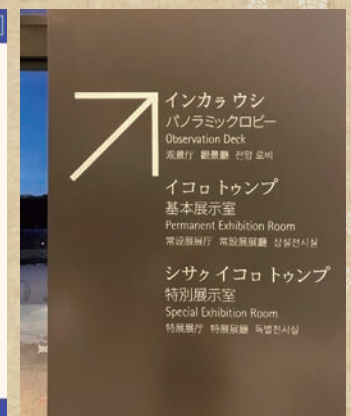
アイヌ語はユネスコにより2009年に「消滅の危機にある言語」と位置づけられました。そのような状況にありつつも、一方では誰も

がアイヌ語のデータにアクセスしやすい環境になってきています。それは1990年代に複数の辞典が出版され、2000年代以降は過去に採録された音声資料等の整理やウェブ上での公開が複数の機関によって進められていることが背景にあります。しかし、こうしたデータは90年代以前に採録されたものが主であり、現在の学習者が作文や会話をする際に、必要となる単語が見つからない、あるいは見つかりづらいという現状があります。例えば、当館開業時

に検討した「展示室」などの語も既存のアイヌ語にはありませんでした。アイヌ語を使用する機会を増やすには、作文の際に参照できるデータベースが必要と考え、本調査研究では近年の表現の事例を収集し、データベース化を進めています。そして、将来的にはウポポイ内でアイヌ語を使用する際に参照するにとどまらず、アイヌ語学習者が誰でも使えるように一般公開することを目指しています。(研究員 小林美紀)



検討中のデータベース



館内のアイヌ語表示

## Report 2

### 17世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人および欧米人等によるアイヌ文化に関する記録の比較研究

アイヌ民族が暮らす地域は、16世紀頃からヨーロッパに注目され、探検や布教活動などで立ち寄った船が情報を持ち帰りました。また、18世紀頃から江戸幕府は当時「蝦夷地」と呼ばれた地域で調査を行い、絵図や文書などに記録しました。一方で、1696年には北海道に8人の朝鮮人が漂着した事件があり、この事件に関連する記録が朝鮮側と松前藩側でそれぞれ伝わっています。本調査研究は、これらの記録を比較することで、17世紀のアイヌ民族の生活の様子一端を提示するとともに、外から見たアイヌ民族および蝦夷地についての認識を示すことを目的に行われました。

北海道の北部にある礼文島に漂着した朝鮮漂流民は、利尻島と宗谷に渡り、その土地のアイヌ民族と交流をしました。その

一人の李志恒が残した日記形式の記録である『漂舟録』には、集落や家屋の様子、そこで食べた魚の種類などが具体的に記録されています。中でも、「カツ」と呼ばれる笠子帽の紐につないでいた水晶玉を2つにつき貂皮2~3枚と交換した結果、60枚ほどの皮を得たという物々交換の様子は興味深い内容です。水晶玉を2つ1組にしている点から、これらの玉はタマサイと呼ばれる首飾りに用いられたと考えられます。

漂流民はアイヌの教えで南に向かって移動する途中で、羽幌付近で砂金掘りに来ていた和人に会います。その後は、和人により松前まで護送され、江戸や大阪、対馬などを経由して、翌年朝鮮に送還されました。松前藩においても、朝鮮人の漂着は大事件であったため、李志恒が漢文で述べた漂流の事情や手紙、漢詩などがさまざまな形で筆写され残っています。

調査の成果は、基本展示室「私たちの交流」の展示に活用しました。また、朝鮮後期の「蝦夷地像」の形成について、新たな

調査研究プロジェクトで継承し、現在も調査を行っています。(アソシエイトフェロー シンウオンジ)



朝鮮漂流民の北海道における移動経路



漂流民が松前藩主宛に漂流の事情などについて書いた文書(『漂流朝鮮人李先達呈辞』北海道立文書館蔵)





「語り合う熊」2018年 個人蔵 撮影：露口啓二

第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」

北海道を代表する木彫家、藤戸竹喜(1934-2018)。今、その驚異的な仕事に熱い目が注がれています。藤戸竹喜は北海道の美幌町に生まれ、アイヌ民族の伝統的な彫りの技を受け継ぎ、クマやオオカミなど北に生きる動物たちから、先人たちの威厳あふれる肖像彫刻へと作域を広げ、独自の芸術世界を創造しました。初期から晩年に至る代表作90点と収集したアイヌコレクションを紹介いたします。

ウポポイ こんなとこ12

ウポポイ2023年の振りかえり

2023年はたくさんの特別イベントを開催しました。今回はその1シーンをご紹介します。今年も多くの方に楽しくアイヌ文化を体感いただけるよう、さまざまな企画でお待ちしています。お楽しみに!

<p><b>イラマンテ(狩猟)</b> ～いのちへの感謝～ 1/7～9 厳しい冬を生きる知恵と技が目白押し。</p>	<p><b>阿寒湖アイヌコタン 伝統ト革新展 #01</b> 4/28～5/28 古式舞踊×現代舞踊のステージに拍手喝采!</p>	<p><b>ウポポイ祭2023</b> 7/15～17 お客様+スタッフの輪踊りが大盛り上がり!</p>	<p><b>ウポポイ 夏休みイベント</b> 8/5～19 夏空に子どもたちの歓声が響き渡りました。</p>	<p><b>ウポポイ 無料開放DAY</b> 11/3 過去最多のお客様が晩秋のウポポイに!</p>
<p><b>ウポポイ アイヌ アートショー2023</b> 11/3～4 各地で活躍する方々と会って話しての2日間。</p>				

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

<p><b>ウポポイ ドローンショー</b> 1/27～2/12 300機のドローンが冬の夜空を彩る特別な夜となりました。</p>	<p><b>ウポポイでEnjoy! ゴールデンウィーク</b> 4/29～5/7 伝統芸能上演新プログラム「イメル」が登場。</p>	<p><b>松浦武四郎 in ウポポイ2023</b> 7/22～23 「北海道の名付け親」とアイヌの交流って?</p>	<p><b>カムイチェフ 受け継がれたサケ漁</b> 9/16～23 実演・体験・講演・グルメなどアイヌとサケのかかわりを体感。</p>	<p><b>阿寒湖アイヌコタン 伝統ト革新展 #02</b> 11/28～12/16 今年も待ってるポん♪</p> <p>ウポポイPRキャラクター トウレツポん</p>
---	--	--	--	--

※最新のイベント情報はウポポイウェブサイトへ。

人権啓発のお知らせ

アイヌの人々への理解を深め 偏見や差別のない社会を



令和元年5月に施行された「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」では、アイヌの人々へのアイヌであることを理由とした差別の禁止に関する基本理念などが新たに定められています。法務省の人権擁護機関では、アイヌの人々に対する偏見・差別をなくし、アイヌの人々に対する理解と認識を深めるよう、人権啓発活動や人権相談(みんなの人権110番 ☎0570-003-110)、調査救済活動に取り組んでいます。

現在、アイヌの人々の人権に関する啓発動画『アコロ青春 a=kor アコロ(アイヌ語で「私たちの」)』が公開中です。ぜひご覧ください。  
【動画掲載 URL】 <https://youtu.be/V6DGN1ekTjQ>  
出典/法務省ウェブサイト  
([https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken05\\_00004.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken05_00004.html))



■お問い合わせ  
公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)  
住 所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号  
電 話：0144-82-3914 FAX:0144-82-3685  
メール：info@ainu-upopoy.jp

ウポポイにおける新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みや、プログラム等の詳しい情報はウポポイウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索  
<https://ainu-upopoy.jp/>